

一年中「さわやかさ」と「驚き」が続くIT都市

熱帯に位置しながら軽井沢とほぼ同じ標高にあるバンガロールは、一年中さわやか

で緑が多いため「エアコンシティ」とか「庭園都市」と呼ばれている。また、インドで五番目に多い六五〇万人の人口を擁し

校舎を借用しているインターナショナルスクール

●インド●

バンガロール 補習授業校

緑に包まれたIT産業都市

「インドのシリコンバレー」の異名も持つ。空港や地下鉄・レストラン・大型モール、テーマパークや高層住宅など続々と開発が進む一方、人も穏やかで災害も少ないため家族帯同の駐在者が増えている。ヨガやダンス、地元料理や映画に親しんだり、家族連れで乗馬やゴルフを楽しむ姿も見られる。

とはいえ、オフィスを彩るサリー姿、三食カレーの企業戦士、信号を守らぬ車と守る「牛」、また店番と牛、先生と猿、農民と象の愉快なバトルなど、活気とカオスとハーモニーにあふれ、驚きの異文化体験には事欠かない。

現地の教育環境



小学部4年 算数

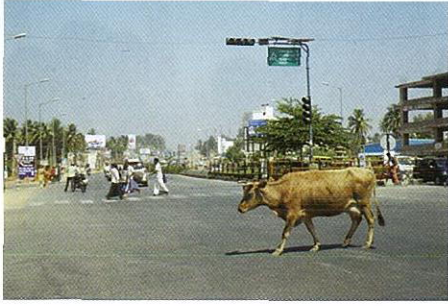
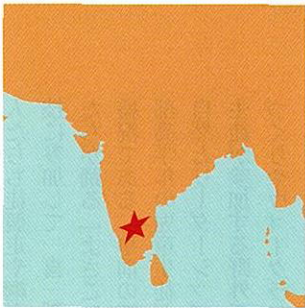


中学部1年 国語

教育熱心な中流家庭が多く、市内六〇七割の子どもが学費の高額な私立校に通い、英語で教育を受ける（全国の私学率は二割程度）。総人口十二億人の過半数が二十五歳未満のこの国では、公務員試験の倍率が五〇〇倍に及ぶなど競争が熾烈で、塾に通う子どもの姿も増えている。一方で公立校（授業は現地語）にすら通えぬ恵まれない子どもたちのために寄付やボランティアで運営される学校もある。

バンガロールは百年の歴史を誇るインド理科大学院や人気のインド経営大学院など有名校が名を連ねる学園都市で、識字率は首都デリーに次いで高い。

インドの在留邦人数は、UAEやパラグアイ並みの約四〇〇〇〇人で、お隣り中国の三分の一以下に過ぎず、市の邦人数も約五〇〇人で子どもの数はその一割程度。日本人学校はなく、おもにインターナショナルスクールに通うが、市内三十を超えるインターナショナルスクールで日本人が通うのはおもに二〜三校。概ね小人数編成で、ESLクラスなど徐々に英語になじむため

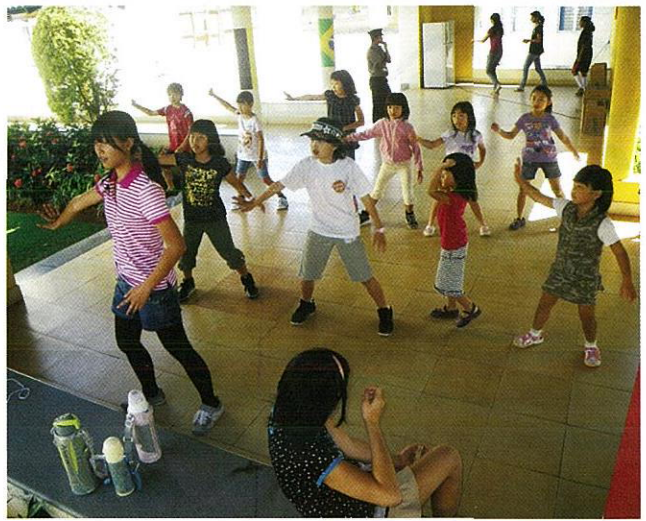


青信号を渡る牛





ジャパニングハッパ



ドッジボール



工場見学



小学部1年 国語

Japanese Weekend School of Bangalore

URL <http://sites.google.com/site/bangalorehoshuko/>

bangalorehoshuko/

児童生徒数 小=34人 中=10人

子どもたちから

休みじかん みんなと おにぎりをたべるのが 楽しいです。(小1)

イベントが たくさん ございまして とても楽しいです。(小5)

緑と木が たくさん 囲われた 学校で、普段 私達が 出来ない 勉強が 出来る ことが 助かります。そして、図書室も 充実し、本を 楽しめます。(小6)

の工夫も凝らされている。二〇〇九年のあの調査で世界のベストインターナショナルスクールに選ばれた学校もある。

日本人らしさを自然に学ぶ 思い出の場として

本校は自主勉強会をもとに二〇〇五年に設立された補習授業校である。専任スタッフや政府派遣教員はなく、皆ボランティアながら、各教師とも本職顔負けの情熱と真心でいつも明るく教壇に立つ。児童生徒数はインドの在外教育施設ではニュー・デリーー日本人学校に次ぐ規模。小学生は二年で四割近く増えるなど、授業はより活気を増し、休み時間には昔ながらの日本の遊びや、大トカゲ探しなどにぎわう。「日本と国際社会への見識を備えたバランスのとれた

国際人」を目標に掲げ、授業は土曜日の朝九時から各学年国語と算数の二時限ずつ、市内インターナショナルスクールの広い校舎を借り、のびのび学び、元気に遊ぶ。義務教育レベルの維持を主眼とするが、日本語で自由に話せる安らぎの場でもあり、書き初めやドッジボール大会、日系の工場見学などの学校イベントのほか、花火大会やジャパニングハッパ(日本祭り)等の行事も行う。祭り前の時期は休み時間になると舞台で披露する「よさこいソーラン」の練習が始まり、懐かしいメロディーと子どもたちの掛け声や笑い声が校舎にこだまする。

一方、昨年就労ビザ発給が厳格化されて教師の確保が危機に晒されたが、あらたに地元の日本語学校の協力を得て、かろうじて一時的に難を逃れた。また、過去の海外経験や個々のバックグラウンド、将来のビジョンやニーズ等が児童生徒増とともに多様化するなか、運営側にとつては、初志に基づき軸足と、全体最適の観点での柔軟性が同時に求められつつある。

緑とさわやかさに育まれ、いつも明るく自由な雰囲気の本校は、勉強だけでなく、日本語の美しさや和の心、礼節や思いやりなどを、躰ではなくふれあいの中から自然に学べる環境と、複雑な日常を離れて生まれる絆や友情、感動など、生涯記憶に残る思い出の場を提供できるよう、みんなが笑顔でがんばる手づくりの学校である。

二〇一一年二月現在